

## 中野区教育大綱の改定に向けての検討状況について

中野区教育大綱（以下、「大綱」という。）の改定に当たり、盛り込む内容を整理したので、以下のとおり報告する。

### 1 これまでの検討経過

#### (1) 中野区総合教育会議

- ・令和4年1月21日（金）

議題 今後の中野の教育のあり方について～中野の教育が目指すもの～

- ・令和4年7月29日（金）

議題 中野区教育大綱に盛り込むべき内容について

#### (2) 区民と区長のタウンミーティング

- ・令和4年8月24日（水） 参加者26名

テーマ 中野区の教育について～中野区教育大綱の改定に向けて～

※（1）及び（2）の主な意見及び資料の一部は、別紙のとおり。

### 2 教育大綱に盛り込む内容

#### (1) 改定の趣旨（背景・考え方）

- 大綱は、中野区基本構想における10年後に目指すまちの姿を見据え、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものである。

区では令和3年3月に中野区基本構想を改定しており、この基本構想の内容を踏まえ、大綱の改定を行うものとする。

- 大綱の改定にあたっては、国の次期教育振興基本計画における検討状況等を捉えつつ、教育機会の充実や質の向上をはじめ、だれもが安心して学ぶことのできる環境の整備や、中野の文化・芸術を生かした地域づくりなど、今後のまちの姿を見据えた教育を行うための方向性を示すものとする。

#### (2) 基本理念

中野のまちの強みを生かし、一人ひとりの「生きる力」を高めていくため、新たな中野区教育大綱の基本理念は、「つながりの中で、誰もが自分らしく学べるまち なかの」を目指す。

- 学校や地域で、誰もが「自分らしく」学べる。
- 学びや参加の中で、人と人が「つながる」。
- そして、つながりの中で、「新たな活力」が生まれる。

### (3) 基本方針（目指す姿・方向性）

#### 【方針1】 誰もが「自分らしく」学べる教育の推進

～ 全員が参加できる社会の実現を目指し、学校・地域での学びを支援する ～

自己肯定感やチャレンジする力、学び合う心や健やかな身体が育つとともに、学びの場を通して社会参加が進み、自分らしく生きられるまちを築けるよう、学校教育や社会教育の場において、個性を生かした教育を推進する。

#### 【方針2】 中野らしさを生かした教育の推進

～ 多様性と地域のつながりを強みにした教育を実現する ～

自己と他者への理解が進み、多様性が尊重され、地域とのつながりで子どもの「生きる力」が育つよう、学校と地域の連携、教育に関わる人材の育成などを進める。

#### 【方針3】 学びの環境の整備

～ 将来にわたって学び続けられるよう、より良い教育環境を整える ～

学びの場が確保され、誰にも学ぶ機会が保障されるとともに、文化・芸術・スポーツに親しめるよう、施設などの着実な整備や多様な学びの場づくりを進める。

### 3 スケジュール

- |          |                            |
|----------|----------------------------|
| 令和4年12月～ | 中野区教育大綱改定素案<br>意見交換会       |
| 令和5年 3月～ | 中野区教育大綱改定案<br>パブリック・コメント手続 |
| 4月       | 中野区教育大綱改定                  |

## 1 総合教育会議（7月29日）での主な意見

## (1) 基本理念について

- ・一人も取り残さないというところが、うまく表現がされていて、もっと積極的に自分らしく学べるというところが良い。
- ・お互いに影響し合う中で、学びが支えられ、創造性があるまちということで、わくわくするような、フレーズである。
- ・「自分らしく学べる」は、学び方や学ぶ内容、個を伸ばす教育も表現されている。
- ・「つながり」は未来へのつながりも想像させ、広がりがある。
- ・自分らしく学べるということは、健康な子ども、大人、あるいは障害のある子どもなどが読んでも、納得できる。
- ・学ぶことや参加することそのものが、地域の活性化に結びつくという部分がよい。

## (2) 方針1 誰もが「自分らしく」学べる教育の推進

- ・主語が、区長なのか、地域の皆さんなどになるのかなど、整理した方がよい。
- ・「全員が参加する」という表現だと、強制で参加しなければならないととらえられる可能性がある。参加も「自分らしく」「参加できる」とした方がよい。
- ・ライフスキル（日常の問題に建設的・効果的に対処する力）も含めた教育という視点を盛り込んでほしい。
- ・方針の1と2を入れ替えた方がよい。

## (3) 方針2 「中野らしさ」をいかした教育を推進する

- ・教員や地域の人々も子ども達と共に学び合えるというような方向性で検討を進めてほしい。
- ・「大人も学びの楽しさを感じている」という表現が加わると区民全体の教育だと明確になる。
- ・子どもの主体性が認識されている。「生きる力」のところに、子どもの「地域参加」も示されるとよい。
- ・今後は、学校と地域は「連携」のみではなく、「一体化」していくようなイメージがある。「連携」で終わらせないでほしい。

## (4) 方針3 学びの環境を整備する

- ・地域の方々の健やかな生活を支えるという意味では、文化・芸術に加え、「スポーツ」という言葉を含めた方がよい。
- ・学校教育と社会教育の垣根をなくしていくことができる、という発想なら先進的になるかもしれない。
- ・文化・芸術やまちの伝統に触れあったり、親しめる環境、参加できる環境が大事である。

## 2 区民と区長のタウンミーティング（8月24日）での主な意見

（テーマ 中野の教育について ～教育大綱の改定に向けて～ ）

- ・大綱の理念には、時代の変化をとらえるような表現を入れた方が良い。
- ・子ども達だけでなく、全ての区民が関係する社会教育や生涯学習を充実させてほしい。
- ・子ども達の興味や関心の分野から、自ら選び決めることができる教育の場を確保してほしい。
- ・主体性、主権者教育の場の確保が必要である。
- ・「中野らしさ」を活かした教育を推進してほしい。
- ・年齢、国籍、性のあり方及び障害の有無に関わらず、相互理解・多様性が尊重されることが重要である。
- ・コロナウイルスによって失った、学校、家庭及び地域のつながりを取り戻す必要がある。
- ・教員の働き方改革や、メンタルヘルスケアなど、教員自身の余裕と子どもと関わる時間を増やすことが必要である。
- ・学生や民間企業の人も教育に参加してほしい。
- ・孤立しがちなコミュニティ（LGBTQや外国人）とのつながりや交流の機会の創出が課題である。
- ・図書館、児童館及び空き家を活用して、保護者・子ども達の居場所を多く確保することが必要である。

## 1 基本構想・基本計画の改定

- ・中野区基本構想(令和3年3月改定)「つながる はじまる なかの」  
(誰一人取り残されることのない安心できる地域社会の実現)
- ・中野区基本計画の改定(令和3年9月)

## 2 関連条例の制定

- ・中野区子どもの権利に関する条例制定(令和4年3月)
- ・中野区人権及び多様性を尊重するまちづくり条例制定(令和4年3月)

## 3 新型コロナウイルスからの再生と教育活動を支える地域づくり

- ・ICTを活用した教育活動の推進
- ・地域活動の再開と、人と人のコミュニケーションの重視
- ・協働と協創(新たな価値の創造)、新たなチャレンジの応援
- ・多様な学びに対応した環境づくり

## 【基本理念】

「つながりの中で、誰もが自分らしく学べるまち なかの」  
～学校や地域で、誰もが自分らしく学べる。学びや参加の中で、人と人がつながる。  
そして、つながりの中で、新たな活力が生まれる～

## 【方針1】 「中野らしさ」を生かした教育を推進する

～「多様性」と「地域のつながり」を強みにした教育を実現する～  
(めざす姿) ・自己と他者への理解が進み、多様性が尊重されている  
・地域とのつながりで、子どもの「生きる力」が育っている  
(方向性) 学校と地域との連携、教育人材の育成等

## 【方針2】 誰もが「自分らしく」学べる教育を推進する

～全員が参加する社会の実現をめざし、学校・地域での学びを支援する～  
(めざす姿) ・自己肯定感や、チャレンジする力が育っている  
・学び合う心が育っている  
・学びの場を通して社会参加が進み、自分らしく生きられるまちが築かれている  
(方向性) 学校教育及び社会教育、個性を生かした教育の推進等

## 【方針3】 学びの環境を整備する

～将来にわたって学び続けられるよう、よりよい教育環境を整える～  
(めざす姿) ・学びの場が確保され、誰にも学ぶ機会が保障されている  
・文化・芸術に親しめる環境が整っている  
(方向性) 施設などの着実な整備、多様な学びの場づくり等